

山に群がり、ロープを巻き付ける山伏山保存会の男たち。来年以降も自分たちの手で山を運べる

(13日、京都市中京区室町通錦小路上ル・山伏山)



## 技術を後世に、町衆結集

「もつとぎつく締めて」「ここはどつやつたかなあ」。かき山の山建て。山伏山（京都市中京区室町通錦小路上ル）から、にぎやかな声が響いた。

今年初めて、鉾町の町衆が山建てに挑んだ。ほかのかき山では少数の大工が黙々と作業する中、20人を超える町衆が山の骨組みに群がる光景は新鮮だ。

山建ては長年、顔見知りの大工に任せてきた。町内のだれも山の建て方を知らない。部材がどこにしまわれ、どこに使われるのか、さっぱり分からない。もし、なじみの大工と関係が切れてしまったら…。危機感を抱いた。

### 4 山 建 て

Tシャツ、首にタオルを掛けた町衆が2人1組でロープを持ち、骨組みの交差部分を「8の字」に巻き付ける。木づちでたたいて締める。なかなか手際がいい。

実は5月にリハーサルを行った。工務店経営の竹田茂夫さん（72）Ⅱ南区Ⅱが指導を引き受け、本番も大工を応援につけてくれた。

午前9時前から取り掛かり、昼前には山中央の真松まで立ち上がった。丸1日を山建てに割いた町衆は、少し誇らしげだ。

「祇園祭は町衆のもの。次へ伝えるためにも自分らの力でやりたい」。山伏山保存会の近藤泰輔さん（82）は力を込めた。